

生涯教育研修会報告書

学術部 学発番号 第 11-019 号

平成 23 年 7 月 23 日 報告

報告者：鈴木泰子

所属：なぎ辻病院

連絡先：075-591-1131

主題：第 11 回京都 CDE の会講習会

みんなで考えよう！糖尿病チーム活動～活躍するスタッフからの報告～

日時：平成 23 年 7 月 10 日（日） 13：45～17：20

場所：キャンパスプラザ京都

分類：

主催：京都 CDE の会、日本イーライリリー株式会社

共催：京都府臨床検査技師会

後援：京都府看護協会、京都府栄養士会、京都府薬剤師会病診部会

●特別講演

臨床検査技師のプレゼンズ向上を目指して

～チーム医療への参画、できることからはじめよう！

住友病院 診療技術部 田上展子 先生

大学病院での糖尿病療養指導士の必要性

～薬剤師の立場から感じる事

大阪医科大学付属病院 薬剤部 牧野順子 先生

当院の糖尿病チーム医療における管理栄養士の役割

大阪警察病院 栄養科 西尾勢津子 先生

チーム医療ことはじめー私たちの糖尿病チームのできたいきさつ

医誠会病院 看護部 畑中あかね 先生

チーム医療での臨床心理士の役割と活動の実際

京都大学教育学研究科 臨床心理士 皆藤 章 教授

●グループディスカッション

自施設の現状を考えて、糖尿病チームとしてうまく活動していくためには??

会員参加人数 11（6）人

仮会員 0 人

非会員 78 人

賛助会員 0 人

学生 0人

以下、講習内容など

特別講演では糖尿病チーム医療で活躍されている臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、看護師の方たちから、どのようなことをきっかけにどうやって他職種とコミュニケーションをとり、チームとして活動する手立てとされていかれたのかがそれぞれの事例であり興味深く聞かせてもらいました

皆さんに共通していたのは何かトラブルや弊害があってもそれをマイナスとして受け止めるのではなくそれをもきっかけにしてピンチをチャンスに置き換える考え方は見習う所が多かったです

最後に講演された臨床心理士の教授の話では、臨床心理士は患者さんと話をしている臨床心理士の部分とそれを少し離れたところから冷静にかつ客観的に見ている臨床心理士の部分の両方を持ち合わせていることが大切と言われた言葉が印象的でした

こちらがどのような考えで接しようが どのような思い入れがあろうが最終的には患者さんの心に響くこと、患者さんの心に寄り添えることが重要であるということを痛感させられる話でした

グループディスカッションではそれぞれの施設の現状を話すなかで、いかにしてモチベーションを保つか、回りに認めてもらえるようどのような積み重ねをしてきたかなどなどいろいろな話で盛り上がりました。なかには糖尿病療養指導士に手当てがでている施設の話も紹介され有意義な情報交換ができたと思います

(報告 鈴木泰子)